西南小の風

だれかのために　じぶんのために　いっしょうけんめい

西合志南小学校学校だより
文責　田中 宏和
令和5年5月2日
第3号

つないだ手 伝わる温もり 頼もしさ

昭和五十一年、私（校長）は小学校一年生でした。入学してすぐに歓迎遠足がありました。当時は、「お見知り遠足」と言っていました。六年生と手を繋いでいきます。背丈が自分の倍ほどにも感じる六年生のお兄さんの手は、温かく大きな手でした。口数こそ多くないお兄さんでしたが、今思えば周りの同級生を見ながら、できることをやってくれていました。周りに荷物を持ってあげている六年生がいると、「荷物持ってやっけん。」とリュックをさっと持ってくれました。一年生をおんぶしている同級生を見ると「おんぶしてやろか？」と。おんぶはしてほしかったけど、なんか恥ずかしかったから首を振って断りました。その六年生のお兄さんとはそれきりです。でも、高学年のお兄さんの頼もしさを感じ、おぼろげに敬意のようなものを感じたものです。

前置きが長くなりましたが、昨日（五月一日）は歓迎遠足でした。五年生は二年生と、六年生は一年生と手を繋いで歩きました。その多くがお互いニコニコしながら歩いていました。中には人見知りなのか、照れながら黙って歩くペアもありましたが、道に出れば上級生がサッと車道側に移動し小さな下級生を守る動きになるのです。頼もしくも微笑ましい光景です。

こうした異学年交流はたくさんのメリットがあります。上級生にとっては、自分より身体も小さいし力も弱いし、できることも少ない下級生を前にして、どうにかしてこの子を守らなきゃ、助けなきゃという思いを持ち、行動に出ます。人に寄り添い、人のために行動することを学ぶのです。こうして、相手のことを考える能力が高まり、自己肯定感の高まりやリーダーシップにつながっていきます。下級生にとっては、自分ができないことを簡単にやってのける上級生を見て、頼れる存在として認識し、自分もそうなりたいと思うようになります。また、優しくされてうれしかったから、人にも優しくしようとします。「だれかのために　じぶんのために　いっしょうけんめい」なのです。ただ、時にはイライラすることもあるみたいですね。登校班を見るとよくわかります。異学年交流も登校班のように日常になると、お互いへの信頼が甘えになることもしばしばです。我が子も小六の時は登校班の一年生に「あいつは全然言うこと聞かん。毎朝、班を飛び出して走ってく。・・・。」とブツブツ言っていましたが、それも上級生には勉強です。

彼らのこの背中が頼もしいのです！

出発前は、企画委員会による歓迎行事がありました。先生方に関する八問の○×クイズによって盛り上げ、体育館は〝興奮のるつぼ〟と化しました。そんな企画委員会の上級生の姿に、特に四年生以下の児童は憧れの感情を持ったはずです。

このような縦の関係、同級生の友だちとの横の関係の他に、今はもう一つ「ナナメ（斜め）の関係」が大切だと言われています。

小学生にとってのナナメの関係とは、近所のおじさんやおばさん、年の離れたお兄さんやお姉さんなどの地域の方々との関係です。朝から正門で登校指導をしていると、数百メートル向こうから、足取りの重い児童に寄り添っていっしょに歩いてきてくださる地域の方がおられます。子どもは大きな安心感を感じていると思います。とてもありがたいです。

さまざまな形による人との関わりを、これからも大事にしていきます。そこに、子どもたちの成長のための大きな機会があると思っています。

新緑の中を遊びまくる８７２名